

眼科

■ スタッフ

科長	近藤峰生	
副科長	生杉謙吾	
医師	常勤	15名
	非常勤	6名
視能訓練士		7名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

眼科の特徴

三重大学眼科では、現在、あらゆる眼科疾患（眼形成・眼窩疾患分野を除く）に対して、診断と治療をおこなっています。

初診外来は月曜日から金曜日の 8:30～11:00 で、紹介状をお持ちでない初診患者さんの診察も受け付けています。（紹介状をお持ちでない場合、別途「選定療養費」がかかります。）特に火曜日と水曜日の教授外来には、難治性の網膜疾患の方を中心に全国から患者さんが受診されています。再診は 予約制となっています。

三重大学眼科が得意とする疾患は、網膜硝子体疾患（糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑前膜などの診断と手術治療）、加齢黄斑変性（抗血管新生療法、光線力学的療法）、網膜変性疾患（網膜色素変性、黄斑ジストロフィーなどの診断とリハビリテーション）、角膜疾患（角膜外傷、角膜ジストロフィー、角膜混濁に対する角膜移植術）、涙道疾患（鼻涙管閉塞に対する内視鏡手術や耳鼻科との合同手術による涙囊鼻腔吻合術・鼻内法）、緑内障（難治緑内障に対する手術治療）、白内障（小切開超音波白内障手術）、斜視・弱視（屈折矯正と斜視弱視訓練及び手術）、小児眼科（先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの小児眼疾患）、ぶどう膜疾患（サルコイドーシス、ベーチェット病、原田病など）です。

また眼科医が 24 時間 365 日院内待機をしている県内では数少ない病院の一つで、特に眼外傷の緊急手術など、眼科二次救急を担当しています。

■ 診療体制

主な専門外来

三重大学眼科では、特に専門的治療が必要な疾患、治療の困難な疾患、頻度の高い疾患については専門外来を設け、その分野についてのエキスパートが

治療を担当します。

1) 教授外来

近藤教授の外来には、難治性眼疾患の患者さんをはじめ、全国からあらゆる眼科疾患の患者さんが受診されていますが、特に教授の専門分野は、網膜硝子体疾患、網膜の機能評価（臨床視覚電気生理）です。

2) 網膜硝子体外来

網膜剥離、黄斑部疾患（黄斑上膜、黄斑円孔、黄斑浮腫、中心性漿液性網脈絡膜症など）、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、増殖硝子体網膜症、硝子体出血などの診断および治療をおこないます。特に重症型糖尿病網膜症、日本でも中途失明原因の上位となっている加齢黄斑変性という網膜の中心部に異常を来たす疾患の専門治療もおこないます。手術治療が中心となることが多いですが、加齢黄斑変性に対しては、蛍光眼底造影検査などによる正確な診断と硝子体注射と呼ばれる眼内注射治療および光線力学的療法をおこなっています。

3) 緑内障外来

日本でおこなわれた大規模調査によると、40 歳以上の日本人では 20 人に 1 人の割合で緑内障患者が存在すると言われていています。また日本における失明原因のトップは緑内障です。緑内障外来では、最新の検査機器を使った早期診断から長期的な点眼治療、重症例に対する手術治療まで緑内障のトータルケアをおこないます。

4) 角膜外来

角膜感染症（細菌、真菌、ウイルスなど）、ドライアイ、円錐角膜、水疱性角膜症や遺伝性の角膜疾患などの診断と治療をおこなっています。特に角膜感染症の迅速診断や角膜移植治療を積極的にこなっています。

5) コンタクト外来

円錐角膜や角膜の強い乱視などの眼疾患があり、通常のコンタクトレンズができない方を対象に経験豊富な角膜専門医がコンタクトレンズの処方をおこないます。

6) 涙道外来

成人の鼻涙管閉塞症、乳幼児の先天鼻涙管閉塞症に対し、涙道内視鏡を用いた検査及び治療をおこなっています。また当院耳鼻咽喉科とも連

携し、流涙症に対し顔に傷が残らない涙嚢鼻腔吻合術鼻内法をおこなっています。

7) 小児眼科外来

視機能発達の重要な時期にある小児が罹患する斜視、弱視、先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの疾患の診断、治療をおこないます。また視能訓練士という国家資格を有する7名の専門スタッフが丁寧に時間をかけて小児の検査・訓練をおこないます。

8) ロービジョン外来

現在の視機能の評価し、読み書きのための道具（ルーペ、拡大読書器、音声パソコンなど）の選定、白杖、日常生活補助具の紹介や身体障害者手帳申請の相談、視覚障害者用社会福祉関係の施設や職能訓練施設の情報提供などをおこなっています。ロービジョン外来は、完全予約制です。

テノン嚢注射	79
--------	----

*総手術件数には硝子体注射及びテノン嚢注射を含まず。

4) 主な施行手術と件数 (件)

手術名	29年度
硝子体手術	384
網膜復位術	29
白内障手術	930
角膜移植術	14
緑内障手術	134
斜視手術	38

■ 治療実績

1) 外来患者数 (人)

	29年度
総外来患者	30,109
総初診紹介患者	1,577
県外からの紹介患者	56
小児(15歳以下)の紹介患者	191

*特に平成29年度は眼底三次元画像解析検査11,915件、涙管チューブ挿入56件などを外来にて施行

2) 入院患者数 (人)

	29年度
総入院患者(人)	8,208
平均在院日数(日)	5.7

3) 外来及び入院での手術及び眼注射件数 (件)

	29年度
総手術件数	2,045
硝子体注射	2,172

■ 臨床研究等の実績

当科からの論文発表や学会発表実績は以下の通りです。(平成29年度の代表的なもののみ掲載)

<英語論文>

- Ikesugi K, Ichio T, Tsukitome H, Kondo M: Annual incidences of visual impairment during 10-year period in Mie prefecture, Japan. Jpn J Ophthalmol 61(4):293-298. 2017
- Sugimoto M, Ichio A, Nunome T, Kondo M: Two year result of intravitreal bevacizumab for diabetic macular edema using treat and extend protocol. Medicine (Baltimore) 96(16):e6406. 2017
- Sugimoto M, Nunome T, Sakamoto S, Kobayashi M, Kondo M: Effect of intravitreal ranibizumab on the ocular circulation of the untreated fellow eye. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 255(8):1543-1550. 2017
- Matsubara H, Matsui Y, Miyata R, Nishimura Y, Yamamoto T, Tanaka T, Kondo M: New photic stimulating system with white light-emitting diodes to elicit electroretinograms from zebrafish larvae. Doc Ophthalmol 135(2):147-154. 2017
- Kato K, Miyake K, Kondo N, Asano S, Takeda J, Takahashi A, Takashima Y, Kondo M: Conjunctival Goblet Cell Density Following Cataract Surgery with Diclofenac Versus Diclofenac and Rebamipide: A Randomized Trial. Am J Ophthalmol 181:26-36. 2017
- Kato K, Kondo M, Nagashima R, Sugawara A, Sugimoto M, Matsubara H, McCulloch DL, Ikesugi K:

Factors Affecting Mydriasis-Free Flicker ERGs Recorded With Real-Time Correction for Retinal Illuminance: Study of 150 Young Healthy Subjects. Invest Ophthalmol Vis Sci 58(12): 5280-5286. 2017

<邦文論文>

- 近藤峰生、加藤久美子、永嶋竜之介、松原央：S 錐体 1 色覚の患者から記録された黄斑部局所 ERG. 眼科臨床紀要 10(7)：574-579. 2017
- 高嶋祐布子、加藤久美子、天満有美帆、中村明子、新居晶恵、奥成子、田辺正樹、近藤峰生：涙道内視鏡洗浄滅菌方法の検討. あたらしい眼科 34(9)：1309-1313. 2017
- 天満有美帆、杉本昌彦、宮田良平、松原央、近藤峰生：糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬スイッチングが奏効した 2 例. 眼科 59(8)：829-834. 2017
- 菅原朝子、加藤久美子、永嶋竜之介、松原央、近藤峰生：
●RETeval Complete で記録した網膜電図の正常者における再現性. 眼科臨床紀要 10(4)：289-294. 2017

<邦文書籍>

- 近藤峰生：9. 先天停在性夜盲. 眼底疾患パーフェクトアトラス III. 遺伝性疾患：124-125. 文光堂. 東京. 2017
- 近藤峰生：13. 卵黄状黄斑ジストロフィ (Best 病). 眼底疾患パーフェクトアトラス III. 遺伝性疾患：132-133. 文光堂. 東京. 2017
- 近藤峰生：4. 風疹網膜症. 眼底疾患パーフェクトアトラス IV. 先天・発育異常、小児網膜疾患：162-163. 文光堂. 東京. 2017
- 近藤峰生：10. 中毒性視神経症. 眼底疾患パーフェクトアトラス X. 視神経疾患：318. 文光堂. 東京. 2017
- 近藤峰生：4. Kearns-Sayre 症候群. 眼底疾患パーフェクトアトラス XI. 全身、症候群、外傷、薬剤、その他：332. 文光堂. 東京. 2017
- 近藤峰生：CEPO (慢性進行性外眼筋麻痺) と KSS (Kearns-Sayre syndrome). 眼底疾患パーフェクトアトラス ミニノート：333. 文光堂. 東京. 2017
- 近藤峰生：§ 17-63 夜盲症. 1336 専門家による私の治療 2017-18 年度版：1322-1323. 日本医事新報社. 東京. 2017.7
- 生杉謙吾：C. 結節性硬化症 (Bourneville-Pringle 病). 眼底疾患パーフェクトアトラス IV. 先天・発育異常、小児網膜疾患：168. 文光堂. 東京. 2017
- 杉本昌彦：10. 腎性網膜症. 眼底疾患パーフェクトアトラス XI. 全身、症候群、外傷、薬剤、その他：348-349. 文光堂. 東京. 2017
- 松原央：8. くも膜下出血 (Terson 症候群). 眼底疾患

患パーフェクトアトラス XI. 全身、症候群、外傷、薬剤、その他：344-345. 文光堂. 東京. 2017

- 松井良論、石龍鉄樹：2. 多発消失性白点症候群. 眼底疾患パーフェクトアトラス VII. 急性炎症性疾患：222-223. 文光堂. 東京. 2017
- 菅原朝子、近藤峰生：I. 全視野網膜電図. 視能学エキスパート 視能検査学 第 16 章 電気生理学検査：201-205. 2018
- 菅原朝子、近藤峰生：II. 多局所網膜電図 (多局所 ERG). 視能学エキスパート 視能検査学 第 16 章 電気生理学検査：205-209. 2018

<優秀演題シンポジウム>

- Miyata R, Kato K, Matsubara H, Kozawa M, Matsui Y, Sugimoto M, Kondo M: Prognosis of eyes with supernormal flicker ERG amplitudes in eyes with CRVO. 第 56 回日本網膜硝子体学会総会 優秀演題シンポジウム 2. 東京. 2017.12.1

<教育講演>

- Kondo M: Clinical application of mfERG. The 55th Annual Symposium of the International Society for Clinical Electrophysiology of Vision (ISCEV). Miami, USA. 2017.10.21
- Kondo M: Diagnostic approach to retinal disease. The 55th Annual Symposium of the International Society for Clinical Electrophysiology of Vision (ISCEV). Miami, USA. 2017.10.22

<教育セミナー>

- 近藤峰生：ERG が診断に有用な網膜疾患. 第 121 回日本眼科学会総会 教育セミナー6. 東京. 2017.4.7
- 近藤峰生：こんな時こそ、ERG！ 第 56 回日本網膜硝子体学会総会 教育セミナー1. 東京. 2017.12.3
- 加藤久美子：あたらしい網膜電図装置 RETeval の展望. 第 121 回日本眼科学会総会 教育セミナー7. 東京. 2017.4.7
- 加藤久美子：網膜電図なんて怖くない～網膜電図のとり方と解釈について～. 第 65 回日本臨床視覚電気生理学学会 教育セミナー. 豊中. 2017.11.18

<指名講演>

- 杉本昌彦：糖尿病黄斑浮腫治療における薬剤投与の動向. 第 435 回東海眼科学会. 岐阜. 2017.5.28

(その他の業績等は、下記の三重大眼科公式ホームページをご覧ください。)

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/ophthalmology>